

平成28年ホヤ類調査結果速報 No. 6

平成28年12月9日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

12月5日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物および浮遊幼生の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着重量が増加しています（図3下）。ホタテガイ1枚あたり284.9gで、ホタテガイの重量（平均56.4g）の約5倍です。
- 付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり45.1個体で、**平年よりも多い状態が続いています**（表1、図3上）。
- ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生は見られませんでした（図5）。
- 今年の浮遊幼生の出現は5月～11月、耳吊りホタテガイへの付着のピークは6～8月でした。平年よりもやや早かったと考えられます（図2、図3上、図5）。
- ヨーロッパザラボヤの成熟個体の割合は9～10月に大きく増加した後、10～12月はほとんど変わりませんでした（図4）。秋～冬は成熟が進まないと考えられます。

図1 耳吊ホタテガイ（左）とヨーロッパザラボヤ（右）平成28年12月5日 八雲地区



上層

中層

下層



耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・吉田
TEL:0138-83-2893 FAX:0138-83-2849

1：耳吊りホタテ貝付着物調査

〔調査月日：12月5日、調査場所：八雲沖 水深約30m、上中下層 各3枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層ごとに3枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を採取しました。ヨーロッパザラボヤの平均個体数はホタテガイ1枚あたり45.1個体、平均サイズは46.0mmです（図1、表1、図2）。付着個体数は9月の調査（48.5個体）からほとんど変わっていません（図3上）。10mm未満の個体は見られず、新たな付着は起きていないと考えられます（図2）。付着個体は成長を続けており、付着重量は284.9gと10月（146.7g）の約2倍となっています（表1、図3下）。成熟個体（卵と精子を蓄積）の割合は10月と変わらず秋～冬は成熟が進まないとみられます（図4）。付着個体の成長に伴い、今後、付着重量はさらに増加すると考えられます。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：平成28年12月5日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着状況	上層	中層	下層	平均
全付着物重量	159.9g	439.g	309.7g	302.9g
ヨーロッパザラボヤ	118.5g	433.7g	302.6g	284.9g
その他	41.5g	5.3g	7.2g	18.0g
ヨーロッパザラボヤ個体数	27.7個体	55.3個体	52.3個体	45.1個体
平成27年12月(H27.12.14)の個体数	29.3個体	66.7個体	73.0個体	56.3個体
平成26年12月(H26.12.15)の個体数	35.0個体	23.0個体	34.0個体	30.7個体
平成25年12月(H25.12.17)の個体数	2.6個体	17.4個体	22.8個体	14.3個体

図2.ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：平成28年6月～12月）

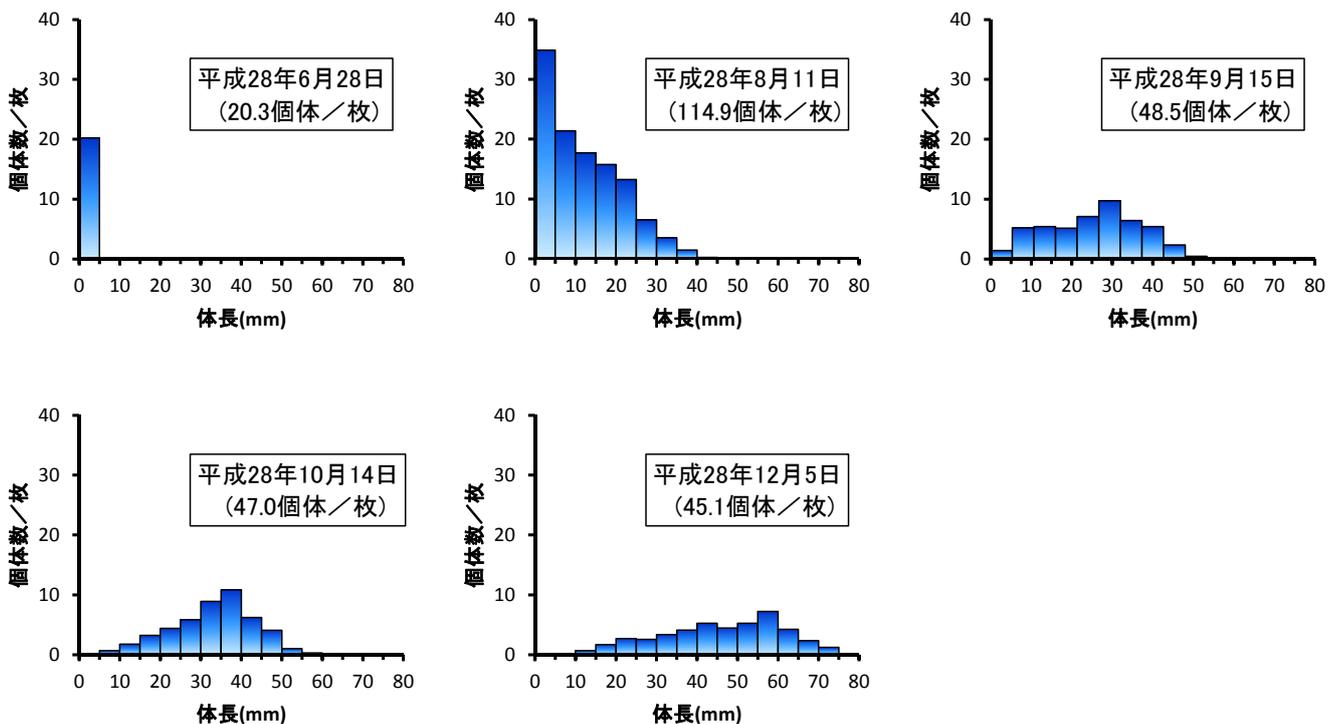
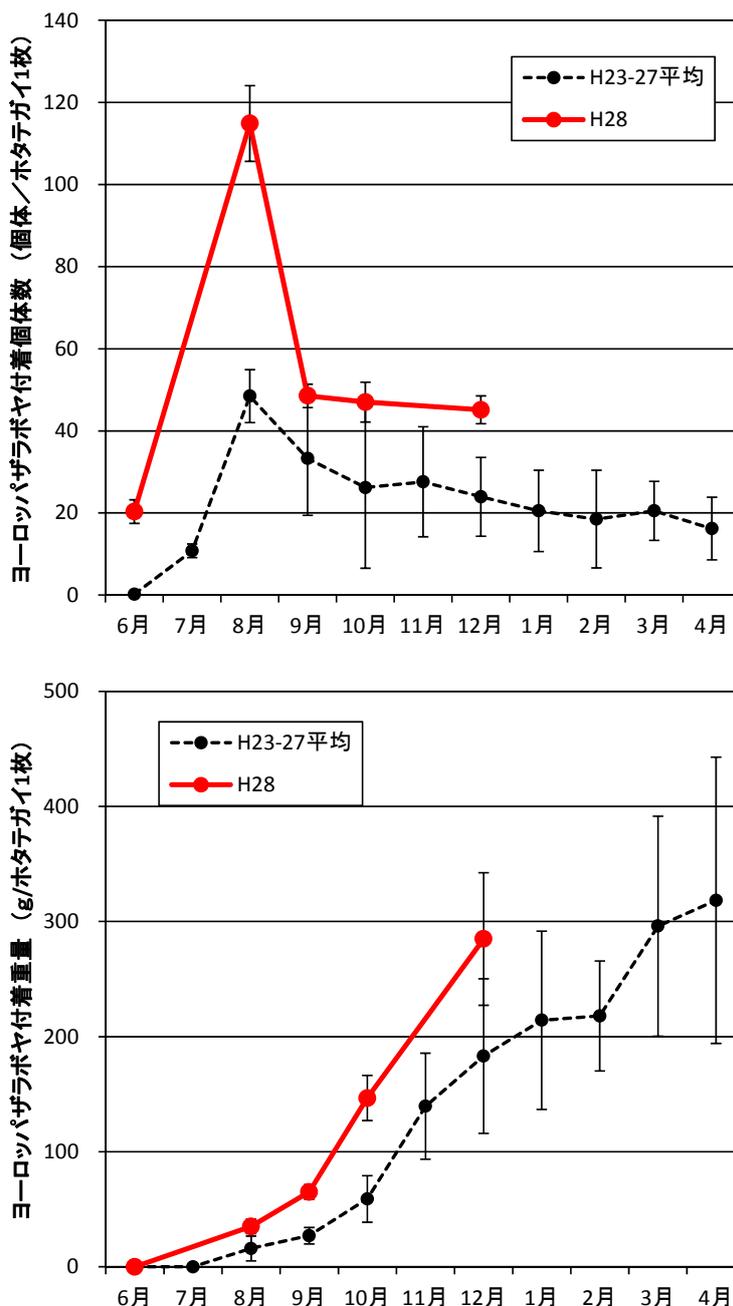


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）

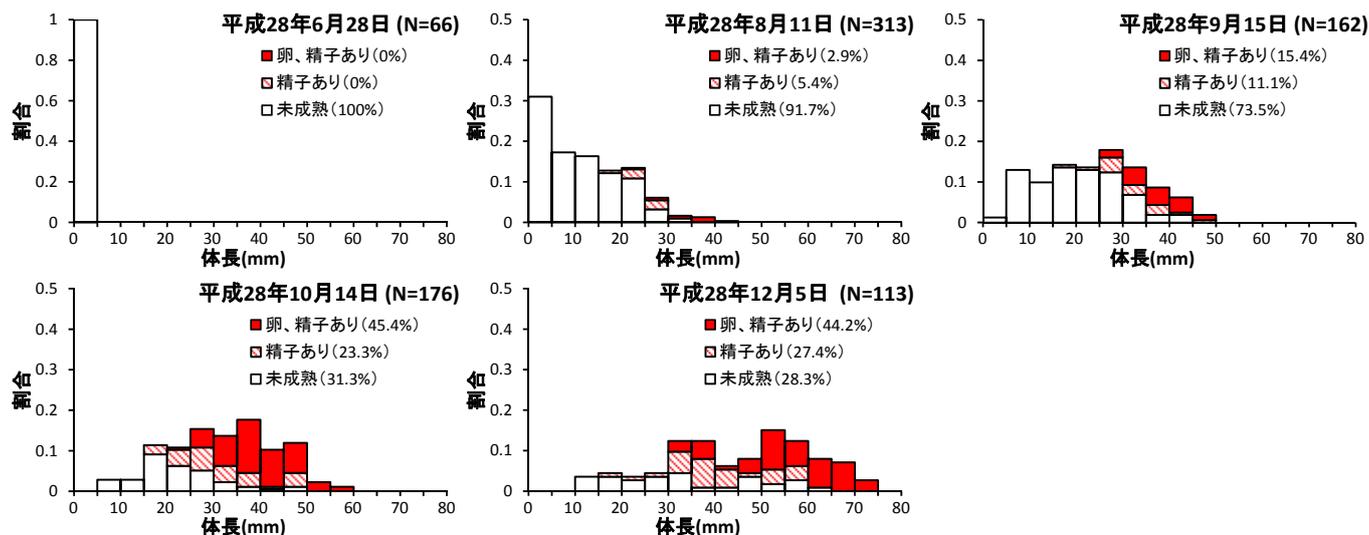


上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去5ヶ年（H23～27年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～8月が中心となっています。付着重量は10月～翌1月にかけて急激に増加します。平成28年は6月の時点で、過去5ヶ年の7月の平均個体数を上回り、付着が早く始まったと考えられます。8～9月にかけて個体数は大きく減少し、例年よりもやや多いレベルまで低下しました。それでも付着重量の増加は、過去5ヶ年と比べて早いペースで進んでおり、今後も重量増加が見込まれます。

図 4.ヨーロッパザラボヤの体サイズと成熟（八雲地区：平成 28 年 6～12 月）



上、中、下層 1 枚のホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤの卵・精子保有の有無を調査しました。12 月の成熟（卵と精子を蓄積）している個体の割合は 44.2%で 10 月（45.4%）からほとんど変化していません。成長（体サイズの増加）は続いていることから、秋～冬は成長するものの成熟が進まないと考えられます。なお、ヨーロッパザラボヤは雌雄同体の雄性先熟種であることが分かっています。

2：浮遊幼生調査結果

〔調査月日：平成 28 年 12 月 5 日、調査場所：八雲沖水深 17m、水深 32m、水深 40m〕

ヨーロッパザラボヤの幼生は見つかりませんでした（図 5）。これまでの調査結果から、来年の 5 月頃までは浮遊幼生はほとんど出現しないと考えられます。

図 5.ホヤ幼生出現状況の経年比較（八雲地区）

